

反映状況票

(単位:百万円)

| 府省名 | 調査事業名 | 調査主体 | 取りまとめ財務局 | 4年度予算額 | 5年度予算案 | 増▲減額 | 反映額 |
|-------|---|------|----------|--------|--------|--------|-----|
| 外務省 | (7) 世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド) 拠出金 | 本省 | — | 7,386 | 2,038 | ▲5,349 | — |
| 事案の概要 | 世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド:以下「GF」という。)は、世界三大感染症であるエイズ・結核・マラリア対策に取り組む国際機関である。 | | | | | | |

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

1. 運営・事業への関与について

国民に対する説明責任及びGFへの関与を一層強化する観点から、資金拠出に当たって日本が求める条件や成果等をGFとの間で明確化し、それに応じた拠出規模とすべきである。加えて、GFに増資期間ごとの成果検証の充実や、出口戦略の具体化に取り組むよう、ドナーとして求めていくべきである。

また、日本企業の調達への参入は、海外販路拡大や知名度・信頼性向上による成長機会の提供につながるものであり、日本企業の参入やNGOの事業実施を促す等の取組を推進し、日本の顔が見える支援となるよう改善すべきである。

上記をより実効性のあるものとするべく、GFとの間で日本独自の定量的な成果目標を設定すべきである。

また、毎年の拠出に際して、「基本拠出」と成果目標の達成状況に応じて行う「追加拠出」に分けるなど、目標達成のインセンティブが働く拠出方式の導入について検討すべきである。

2. グローバルファンドの効率性

GFの管理経費の透明性を高めるため、事業単位の管理経費も公表させることで、これらを含めた総管理経費を検証すべき。

また、今後も増大するであろうGFの資金需要を踏まえ、事業の持続可能性を確保する観点から、民間や被支援国からの一層の資金貢献・負担の増大に向けた取組を求めるとともに、被支援国に中長期的に便益をもたらす支援については、ローンを組み合わせるなど、支援手法の効率化を求めていくべきである。

外務省において、これらの取組状況を随時確認し、その進捗を定量的に把握・評価を行い、結果を拠出に反映していくべきである。

反映の内容等

1. 運営・事業への関与について

日本が求める条件や成果等をGFとの間で明確化すべく、外務省では具体的成果を検証するための日本独自の指標の設定等についてGF事務局と鋭意協議を行っているところである。増資期間ごとの成果検証についてはGF監査・財政委員会(AFC)で提起を行っているほか、出口戦略の具体化についても理事会を通じて求めている。

また、日本企業の参入やNGOの事業実施を促す等の取組を通じた日本の顔が見える支援の一層の推進についても、外務省は厚生労働省とともに、GF事務局や日本のNGO等の関係者と具体的な協議を行っているところである。

3年間の増資期間を通じて、GFにおける上述の取組を含む進捗・成果を見極めつつ段階的に当該ファンドへの都度の拠出を行うこととする。一方、保健システム強化など成果が具体的に出現するまで一定の時間が掛かる事業もあることに留意する。

2. グローバルファンドの効率性

事業単位の管理経費の公表とこれらを含めた総管理経費の検証については、理事会はもとより、2022年5月から日本がメンバーとなった監査・財政委員会(AFC)において提起しており、引き続きフォローする。

事業の持続可能性を確保する観点から、外務省は、民間や被支援国からの一層の資金貢献・負担の増大に向けた取組を求めるとともに、国際開発金融機関(MDBs)と連携したローンを組み合わせた支援の拡大を重視している。理事会でこのような支援の拡大を強く主張しているほか、個別に事務局の担当部局とも協議を行っており、今後ともしかるべくフォローを行う。